

OECD幸福度・社会進歩測定作業 への当研究所の貢献の現状

内閣府経済社会総合研究所

幸福度研究ユニット

当研究所の貢献の現状①

- OECDにおける独自研究への貢献の継続
 - 主観的幸福度測定のガイドライン
 - これまでOECD事務局から提案されているドラフトにおいて、これまでのところ、主観的幸福感も生活(人生)満足と同じ扱い。
 - ドラフトへのコメントとして、我が国における幸福感の特徴とそれに応じた現在、将来、理想の幸福感測定の作業を行っていること、協調的幸福感の概要などを紹介している。
 - 6月の統計委員会までに、調整が進む見通し。
 - How's Lifeは来年春に改訂版を出版予定(現在予算案を協議中)。主観的幸福度測定ガイドラインや第4回世界フォーラムの成果が反映される予定。

当研究所の貢献の現状②

- OECDにおける普及活動・国際的対話への貢献
 - 現在提案されているインドで開催される世界フォーラムのアジェンダには、かなりの程度、アジア太平洋コンファレンスの成果は活用されている。
 - 世界フォーラムへの出席要請が、古川大臣、山内座長他にOECDグリア総長、インド担当大臣から発出済み。

今後のスケジュール

- ✓ 5月下旬: OECD閣僚理事会
- ✓ 6月: OECD統計委員会(主観的幸福度ガイドライン等)
- ✓ 10月16-19日: 第4回統計、知識、及び政策に関するOECD世界フォーラム(於ニューデリー)
- ✓ 来年春: How's Lifeの改訂版